

## ▼クロロマイセチンサクシネート静注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 クロラムフェニコールコハク酸エステルナトリウム chloramphenicol sodium succinate 【分類】 抗生物質

【単位】 ▼1g/V [溶解液注射液用水 11mL 付き]

【常用量】 1回 0.5~1g を 1日 2回 [小児は 1回 15~25mg/kg を 1日 2回]

【用法】 1日 2回 1分以上かけて静注 ■ペニシリンアレルギーのある細菌性髄膜炎の経験的治療に用いられることがある。

【透析患者への投与方法】 特に設定されていないが、減量の必要はなく、透析後に投与 (5)

【その他の報告】 減量の必要なし (12)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 設定されていないが、減量の必要はないと思われる (5)

【その他の報告】 減量の必要なし (12)

【特徴】 蛋白合成阻害により静菌的に作用する。溶解度を増すためにコハク酸エステルナトリウム塩にしている。

【主な副作用・毒性】 再生不良性貧血, 小児でグレイ症候群, 視神経炎, 末梢神経炎, 顆粒球減少, 血小板減少症, 肝障害, 下痢, 過敏症, ビタミン K 欠乏症状など

【F】 変動が大きく平均 70% [po] (1)

【tmax】 1.9hr [po] (1)

【代謝】 臓器のエステラーゼにより活性体の CP に変換され, 主として肝で代謝されグルクロン酸抱合体になる (1) 代謝物には活性なし (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 10% (12) 尿中回収率 65.8~72.2% [iv, 24hr まで] (1) このうち 10%が未変化体と推測 (1)

【t1/2】 3.2hr (1) 1.5~4.1hr, ESRD で 3~7hr (12)

【蛋白結合率】 57% (1) 45~60% (12)

【Vd】 0.4~2.1L/kg (1) 0.5~1.0L/kg (12)

【MW】 445.18

【透析性】 濃度低下率 30~50% (1)

【O/W 係数】 資料なし (1)

【相互作用】 骨髄抑制作用を有する薬剤との併用禁忌 (1) ワルファリン, 血糖降下剤の作用増強 (1) シクロホスファミドの作用減弱 (1) メトトレキサートの作用増強 (1) リファンピシンにより作用減弱 (1)

【更新日】 20170418

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。